

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M3140204	臨床病理学Ⅱ (Clinical Pathology II)	専門科目 生命健康科学コース 専門分野

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	2	後期	月・4	内田 智久、駄阿 勉、西田 陽登 内線：5693 E-mail：tomohisa@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

病理学は、病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする。臨床病理学Ⅰで扱う病理学各論においては、諸器官および、それらを構成する諸臓器の解剖学、生理学を理解したうえで、病理学総論の学修内容を踏まえ、それら諸器官、諸臓器に発生する個々の疾患について、その病因または原因、発生病理または発症のメカニズム、病態、病理形態を学修し、それが診断や治療の基礎になっていることを学修する。さらに症例検討の中で病理学総論・病理学各論で学んだ知識を応用して病態生理を組み立て、疾患をその基盤となる組織・細胞・分子レベルで説明できるようにする。

具体的な到達目標	ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 各臓器の具体的な疾患からそれぞれの病態を説明できる	○					
2. 症状や病理学的所見から病態生理を組み立てることができる		○				

【授業の内容】

1	病理学各論 血管 (内田 智久)
2	病理学各論 心臓 (内田 智久)
3	病理学各論 呼吸器 (内田 智久)
4	病理学各論 小児病理 (内田 智久)
5	病理学各論 造血およびリンパ組織 (駄阿 勉)
6	病理学各論 腎・泌尿器 (駄阿 勉)
7	病理学各論 男性生殖器 (駄阿 勉)
8	病理学各論 女性生殖器・乳腺 (西田 陽登)
9	病理学各論 内分泌 (西田 陽登)
10	病理学各論 筋・骨格 (駄阿 勉)
11	病理学各論 皮膚 (西田 陽登)
12	病理学各論 脳・神経1 (内田 智久)
13	病理学各論 脳・神経2 (内田 智久)
14	症例から病態を学ぶ (内田 智久)
15	症例から病態を学ぶ (内田 智久)

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認		症例問題をグループごとに担当して、その病態生理について発表・討論会を行う。
B：意見の表現・交換	○	
C：応用志向	○	
D：知識の活用・創造		

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する (25h)。
事後学修	授業で学習を活かし、理解を深める (35h)。

【教科書】

教科書は指定しない

【参考書】

ロビンス基礎病理学 10 版 Vinay Kumar (著), Abul K. Abbas (著), Jon C. Aster (著), 豊國 伸哉 (監修, 翻訳)、丸善出版、2018 年

Robbins and Cotran Review of Pathology, 5th edition Edward C. Klatt MD (著), Vinay Kumar MBBS MD FRCPath (著)、Saunders、2012 年

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標 1	目標 2
期末試験	90%	○	○
症例検討発表会	10%	○	○

【注意事項】**【備考】**

教員の実務経験の有無	○	医師
教員の実務経験		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容		臨床の現場で必要となる知識を習得させる。
授業形態		対面